

■森銑三　　在野の学者。無学歴ながら、近世文人の百科全書ともいえる膨大な伝記を書き残し、多大の影響。

もりせんぞう

日清戦争終　・1895＝　　　愛知県刈谷で呉服行商人の長男に生まれる。

母から字を教えられ、定期購入して貰った雑誌{少年世界}の巖谷小波のお伽噺など読みふけり、

日露戦争始　・1904＝　**9歳**：

日露戦争終　・1905＝10歳：

韓国併合・・・1910＝15歳：刈谷高等小学校卒業。技術を身につけようと、叔父を頼って上京。工手学校に入るも、大逆事件判決1911＝16歳：脚気で中退し、帰郷。森鷗外はじめ、明治文学を耽読して過し、

明治天皇没　・1912＝17歳：

大正政変・・・1913＝**18歳**：

第一次大戦始1914＝19歳：治癒して再上京するも、

21ヶ条要求　・1915＝20歳：またも健康害して、帰郷。

民本主義・・・1916＝21歳：

開設された町立図書館に雇われ、寄贈された村上忠順旧蔵書(村上文庫)の整理、古版本・古写本などの分類目録を作る仕事に携わるうち、立派な本を出しながら、作者の姿の分からない人物の多いことに気づき、それらの伝記を書こうと思い始め、

ロシア革命　・1917＝22歳：母校刈谷小学校の代用教員として教壇に立つうち、

本格政党内閣1918＝23歳：東京の雑誌社からの誘いを受けて、また上京、{帝国民}の編集に従事するが、編集長が退職すると、自分も退社し、高崎市南小学校の代用教員となる。ここで気の合った同僚と童話雑誌{小さな森}を創刊するが、校長らから弾圧され、退職・廃刊して帰郷。

大暴落・・・　・1920＝25歳：

刈谷に戻り、*開設された市立名古屋図書館に勤めるうち、「偉人暦」を書き始め、地元紙(新愛知)の主筆桐生悠々に知られて連載すると、好評。

原敬首相暗殺1921＝26歳：

水平社結成　・1922＝**27歳**：

治安維持法　・1925＝30歳：

円本時代始　・1926＝31歳：

学歴無いにも拘わらず、館長の推薦得て、帝国図書館内の文部省図書館講習所に入學を許され、卒業、歴史学者辻善之助の紹介で東京帝国大学史料編纂所図書係となる。身分制度で大学図書館へ出入りできず、関心ある近世文学に冷たい周囲に失望しながらも、松岡於菟から指導受けるなどして勤め続け、

満州事変・・・　・1931＝**36歳**：

帝人疑獄事件1934＝39歳：

40歳記念し、*処女作「近世文芸史研究」を反町茂雄の元で刊行。{無窮会}の図書館での江戸文学同好の志の集まり{三古会}に参加。以降、いくもの集まりに出て、良き先輩に出会い、柴田宵曲と終生の友になる。ラジオ放送で「偉人暦」のような番組を受持ち、毎回ごとに雑誌社から原稿依頼あるなど場も広がる。

芥川直木賞始1935＝40歳：

日中戦争始　・1937＝42歳：

健保+総動員　1938＝43歳：

第二次大戦始1939＝44歳：

児童向けの_「おらんだ正月」上梓、これが専門家にも大きな影響及ぼして行く。退職。名古屋市立図書館長阪谷俊作と知りあい(蓬左文庫)主任となる。傍ら「渡辺崋山」「佐藤信淵」を発表。学会の物議を醸す。同郷の崋山の一貫して華美を嫌い清廉な姿勢にも共鳴し最も好きな人物となる。

大政翼賛会　・1940＝**45歳**：

日米開戦・・・　・1941＝46歳：

・・・・・・・　・1942＝47歳：

「宮本武蔵言行録」、以後、堰を切ったように執筆、「伝記文学初雁」「書物と江戸文化」「渡辺崋山」。上野図書館に日参し執筆を続けるが太平洋戦争がとなり、「新橋の狸先生・私の近世畸人伝」「塙保己一」「近世高士伝」「典籍叢話」「江戸時代の人々」「近世の画家」「宮本武蔵の生涯」、柴田宵曲と共著で「古酒新酒」。_「蓬左文庫」を辞して執筆に専念。随筆集「月夜車」を出版。「書物と人物」「学芸史上の人々」「松本奎堂　天誅組の総裁」、

創価学会検挙1943＝48歳：

年金+総武装　1944＝49歳：

敗戦・・・　・1945＝50歳：

新憲法施行　・1947＝52歳：

空襲に見舞われ膨大な研究資料を焼失、学歴無くて復活のあても無く、窮乏憔悴しきったいたところ、反町と偶然再会して、古書肆(弘文荘)に拾われ、反町が所有する湘南藤沢の鶴沼海岸に転居、以後終生の住処となる。扱われる古文書等が近世以前のものが多く、必死に取組んで書誌学を身につけ、「中納言の笛」、_井原西鶴の研究に注力し始め、「西鶴研究　第1集」

極東裁判決　・1948＝53歳：

三大事件・・・　・1949＝**54歳**：

朝鮮戦争始　・1950＝55歳：

独立回復・・・　・1951＝56歳：

早稲田大学講師(書誌学)に招かれ、早大図書館を利用して研究、

55年体制始　・1955＝60歳：

国連加盟・・・　・1956＝61歳：

なべ底不況　・1957＝62歳：

インスタント　・1958＝**63歳**：

「古い雑誌から」_「西鶴と西鶴本」で、自身の作品は「好色一代男」のみ、他は監修で弟子が書いたと喝破、「伝記走馬燈　近世の人物」、_「西鶴研究　第10集」で完結。人物叢書「井原西鶴」、この間、東大新聞研究所で明治時代の記事探索、人物短評集めて注釈つけた「明治の人物一千人」はじめ、

安保闘争・・・　・1960＝65歳：

タイタイ病始　・1961＝66歳：

TV宇宙中継始1963＝68歳：

大学紛争始　・1965＝70歳：

美濃部都知事1967＝**72歳**：

震ヶ関バトル　・1968＝73歳：

全共闘バトル　・1969＝74歳：

大阪万博・・・　・1970＝75歳：

ドルショック・・・　・1971＝76歳：

沖縄返還・・・　・1972＝77歳：

石油ショック1973＝78歳：

角栄金脈辞任1974＝79歳：

クアンプール事件1975＝80歳：

田中角栄逮捕1976＝**81歳**：

JALハイジャック　・1977＝82歳：

成田衝突・・・　・1978＝83歳：

革新大敗北　・1979＝84歳：

・・・・・・・　・1981＝86歳：

中曽根内閣　・1982＝87歳：

デイズニューント　・1983＝88歳：

・・・・・・・　・1984＝89歳：

ジャンボ機墜落1985＝**90歳**：

戦前に掲載された公開日誌「読書日記」、

「明治写真鏡」「瑠璃の壺　森銑三童話集」_「明治人物閑話」など、内容の豊富さと質の高さで評価される。

「斎藤月岑日記鈔」「瓢箪から駒　近世人物百話」、

「武玉川選釈」「新版　月夜車」、

生涯持家・書斎を持たず、脳軟化症のため_没した。「史伝閑歩」。

DVD「学問と情熱第8巻森銑三」、